



2021年(令和3年)

12月号(No. 919)

公益社団法人

日本山岳会

The Japanese Alpine Club

定価1部 150円

会員の会報購読料は年会費に含まれています

URL ● <http://www.jac.or.jp>e-mail ● jac-room@jac.or.jp

目次

大町桂月「層雲峡から大雪山へ」	
100年前の山行記を追想する ……	1
全国山岳古道調査プロジェクト報告② ……	4
「山の天気ライブ授業」を摩耶山で実施 ……	5
追悼 ……	6
渡邊玉枝さん、73歳の挑戦／	
藤木高嶺さんを偲んで	
連載 島の山旅への誘い⑫(最終回) ……	8
東西南北 ……	12
活動報告 ……	13
山行委員会／科学委員会／	
図書委員会	
支部だより ……	15
福井支部／四国支部	
図書紹介 ……	17
新入会員 ……	17
図書受入報告 ……	17
会務報告 ……	18
ルーム日誌 ……	18
会員異動 ……	19
INFORMATION ……	19
編集後記 ……	19

▶ 日本山岳会事務(含図書室)取扱時間
 月・火・木……10～20時
 水・金……13～20時
 第2、第4土曜日……閉室
 第1、第3、第5土曜日……10～18時
 年末年始休業 12月29日～1月5日

大町桂月「層雲峡から大雪山へ」 100年前の山行記を追想する

「富士山に登って、山岳の高さを語れ。大雪山に登って、山岳の大きさを語れ」。文豪、大町桂月の名言が生まれた大雪山行から100年、節目の今年には、この一文があちこちで取り沙汰された。勘所を押さえたフレーズであり、今に通用する見事なキャッチコピーは、レトリックを駆使した美文家ならではの産物だろうか。

北海道支部 黒川伸一

『中央公論』で紀行文を発表

明治～大正時代に活躍した大町桂月(1869～1925年)の大雪山行は、1921(大正10)年8月22日から山中3泊4日の旅だった。この山々にまだ登山道がない時代のことだ。

大雪山系北部、上川町の霊山碧水峡・塩谷温泉(現在の層雲峡温泉)から入山して、黒岳沢を遡行し

て稜線に上がつて黒岳(1984m)に登り、御鉢平を周回、北嶺岳(2244m)、北海岳(2149m)、白雲岳(2230m)、旭岳(2291m)を踏んで、同月25日に、東川町・松山温泉(現在の天人峡温泉)に下山するという行程だ。この山旅から2年後、桂月は月刊誌『中央公論』1923(大正12)年8月号に紀行文「層雲峡より大

雪山へ」を発表する。本稿冒頭の一文は、この紀行文の巻頭を飾る導入部だ。

前年の1920年には、慶應義塾山岳会の大島亮吉(1899～1928年)が松山温泉からクワウンナイ川を遡行し、石狩岳を経て石狩川を下り、紀行文「石狩岳より石狩川に沿って」が21年の同山岳会報『登高行』に掲載。これに加えて当時、中央文壇の第一線で活躍していた人

気作家が一般誌に発表した紀行文は、導入部の見事さもあった、大雪山の名を知らしめる効果は絶大だった



旅姿の大町桂月(東川町・大雪山アーカイブス提供)

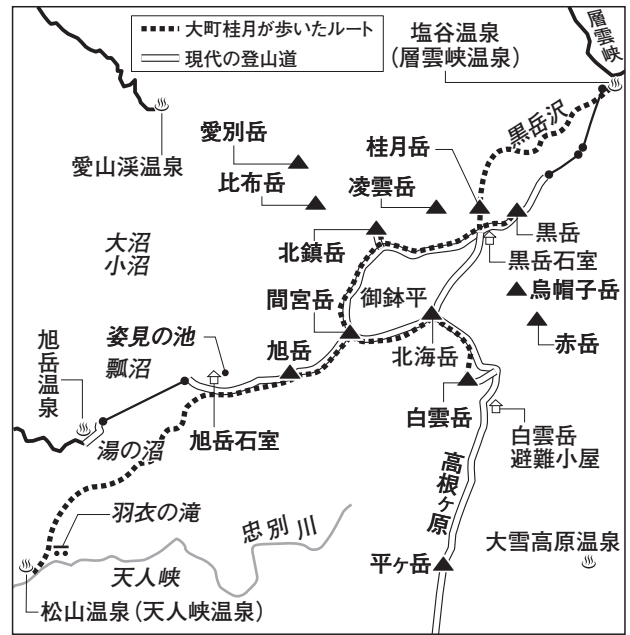
ろう。そもそも大島亮吉も大町桂月も、旭川中(現・旭川東高)教員として植物調査などで大雪山で地名付けを行なった「大雪山の父」小泉秀雄(1885～1945年)が1918(大正7)年8月、日本山岳会の機関誌『山岳』で発表した「北海道中央高地の地学的研究」とその添付地図「北海中央高地地方地形詳図」(20万分の1地形図)を見て、

未知なる大雪の山々に憧憬を抱き、来道したのである。

ふたりとも小泉の調査を支えた旭川在住の案内人、成田嘉助（1876～1972年）の同行を受けているが、地図が不正確ななか、成田のサポートは大きかった。小泉の手引きにより若手登山家と人気作家の山行を成功に導き、世に大雪山の名を広めたと言える。

直前に出発地と行程を変更

桂月のこの旅最大の目的は、大雪山の最高峰・旭岳であり、小泉



の先行記録などがあり、大雪山系で唯一ルートが明確だった松山温泉からの旭岳往復が当初の計画だった。

しかし直前に、塩谷温泉からの大縦走で旭岳を踏んで松山温泉に下山する行程に変わる。塩谷温泉の温泉主で、新聞記者の塩谷忠（1894～

1958年）が、桂月の訪問を知り、自身の温泉地への招致を画策。塩谷は、影響力のあった旭川区長に根回しして出発地を塩谷温泉とし、下山地を松山温泉にするよう持ち掛け、ルートを変えさせた。

塩谷は、行程を変更させた責任上、自身も山行に参加することで話をまとめ、桂月の旅には、成田を案内人として、塩谷関連の5人が加わり、総勢9人の山行となった。

塩谷温泉出発の当日朝、一帯の総称名である「霊山碧水峡」の名が

気に入らなかった塩谷は、新たな名を桂月に求め、この界隈のアイヌ語地名であるソウウンベツ（滝のある川の意）にちなんで、桂月が「層雲峡」と命名したと語り継がれる。以後、塩谷温泉一帯は層雲峡の名称が定着、桂月の紀行文のタイトルにも「層雲峡」の名が入るのである。

難しかった黒岳沢ルート

このルート最大の問題は、稜線に上がる斜面に道がなく、塩谷温泉裏を流れる未知の黒岳沢を使うしかなかったことにある。現在の地形図を見ても、標高差1300mもの遡行で、難易度の高さが分かる。

「層雲峡より大雪山へ」からは、黒岳沢遡行の難儀ぶりが見て取れる。「瀑（滝）又瀑を攀（よ）り登りしに、終に十余丈（30m超）の大瀑に行きつまる」と記すように、一同は沢の源頭まで詰めることができず、やむなく左岸の笹やブを3時間漕いで沢西側の尾根のハイマツ帯を抜け、尾根上の雪田脇、お花畑に囲まれた池の畔でビバークするのである。

難ルートを抜けた喜びもあり、



御鉢平と周辺の山々（2021年7月14日、北海道新聞社ヘリから撮影）

この夜は焚火を囲んで遅くまで賑やかな酒宴となったようだ。桂月は「下界の煙火などには見られざる壮観を呈するに、酒益味を加ふ」と記す。この日は終日好天だったのになんとか尾根にたどり着けたが、天気に恵まれなければ、相当地に厳しい行動になったことが推測される。

ちなみにこの幕営地は、桂月の命名で「花ノ池」の名が付けられ、その後の地形図などにも地名として長く記載された。

翌23日は尾根をそのまま登り、尾根上の無名峰（1938m、のちに桂月岳と命名）を経由して黒岳



桂月が「雲上に達し」と詠んだ羽衣の滝（同年6月7日撮影）

を往復。御鉢平に沿って北鎮岳まで行き、旭岳を目指す桂月ら4人は、塩谷温泉に引き返す塩谷ら5人と分かれ、旭岳を目指す。この日は御鉢平周辺で幕営、24日に北海岳から白雲岳をアタックし、再び御鉢平を周回して旭岳へ。旭岳登頂時のことを桂月は「西面裂けて、底より数条の煙を吹く。世にも痛快なる山かな」と、山頂から西側に広がる地獄谷の光景をこう記した。

一行は、旭岳山頂から現在の登山道沿いに姿見の池まで降りて、旭平を経て二見川流域に入り沢中で幕営する。25日にそのまま二見川を下降して、羽衣の滝脇から忠別川本流に降りて、当時、山の中の一軒宿だった松山温泉に無事下山するのである。

3大ピークを踏み満足感

桂月の大雪山行は、当初の旭岳だけの登山計画が期せずして、2000m級の山々が連なる表大雪のハイライト部分を横断し、旭岳、北鎮岳、白雲岳の大雪山3大ピークを踏むに至る。「層雲峡より大雪山へ」の締め部分で、桂月は「松山温泉からの旭岳往復だけでは」

大雪山の頂上の偉大なることも判らず、御花畑の豊富なることも判らざる也」「旭、北鎮、白雲の三岳に登らずんば、大雪山の頂を窮めたりとは云ふべからず」と記し、その満足感は相当なものだったと思われる。

登山道と小屋2棟を生む

桂月の大雪山行は、北海道在住者にも大きな刺激を与えた。道職員でつくる北海道山岳会が桂月の山行から2年後、帝室林野局などに働き掛けて、層雲峡を起点に旭岳までの登山道の整備、黒岳側に黒岳石室、旭岳側に旭岳石室の2つの山小屋建設を実現させた。

両石室建設の効果は大きく、特に黒岳石室は活用機会が増え、層雲峡が大雪山系の「表玄関」と呼ばれる上で重要な中継地となる。

層雲峡から黒岳を経てこの2つの山小屋を結ぶ登山道は、黒岳沢から稜線に上がる行程を除けば、桂月らが歩いた道程をなぞっている。現在、大雪山の核心部「表大雪」で最も人気があるハイライト部分である。

人跡未踏の中を歩いた文豪の山旅から100年。自身が先鞭を付けた登山道、さらに御鉢平から白

雲岳周辺も含めた一帯の登山道はこの夏、コロナ禍にもかかわらず、多くの登山者で賑わいを見せていた。桂月が生きていたら、隔世の感はあるまいだろう。

桂月は道中、絵入りの詳細なメモを書き、その中に大雪山関連で漢詩7編を残しており、非凡過ぎる文才を偲ばせる。目的地の旭岳と松山温泉への下山時に見た羽衣の滝の2編（カッコ内は読み下し文で本稿を締めたい）。

〈旭岳〉

大雪群峰聳碧空（大雪群峰碧空に聳え） 旭峰風骨最豪雄（旭峰の風骨最も豪雄） 東西南北不遮目（東西南北目を遮らず） 十国山川一望中（十国の山川一望の中）

〈羽衣滝〉
千丈懸崖雲上達（千丈の懸崖雲上に達し） 懸崖欠処掛飛泉（懸崖欠くる処飛泉を掛く） 相看唯誦青蓮句（相見て唯青蓮の句を誦う）

疑是銀河落九天（疑ふらくは是れ銀河の九天より落つるか）

（北海道支部副支部長）

全国山岳古道調査プロジェクト報告②

来春、全120山岳古道リスト発表へ

近藤雅幸

2025年完成を目標に進めている全国山岳古道調査プロジェクトについて、すでに第1次調査古道として選ばれた59の古道のリストを本会報9月号で報告した。

さて、本プロジェクトでは8月末に、古道調査のための指針となる「原稿作成のためのテンプレート」「原稿作成要項」、および赤城山の登拝道をモデルケースとして作成した「パイロット版」を各支部に配布し、調査の方法を示した。さらに9月上旬、Zoomによる各支部



紅葉の中、増毛山道を調査する(北海道支部)

との打ち合わせがほぼ終わり、10月にZoom環境のない支部とは電話で話をして、プロジェクトに協力してもらえる全ての支部の状況や考え方がある程度見えてきた。

その結果、9月中旬の時点で調査に取り掛かっていた支部は、プロジェクトに協力してもらっている支部32のうち4分の1に満たない7支部のみで、13支部はまだ未着手という状況だった。しかし、8月末に調査の指針を示し、さらにその後、新型コロナウイルスのワクチン接種率が大きく上がり、緊急事態宣言など国や自治体による規制が大幅に緩和されたことで、現在は各支部とも本格的な調査に取り掛かっていて、年明けにはいくつかの山岳古道が日本山岳会ホームページに顔を見せることになるはずである。なお、いくつかの支部の調査の状況については、ホームページに報告が掲載されている。

一方、各支部との打ち合わせでもう一つ明らかになったのが、支部それぞれに見えてきた調査する

ための大幅なパワーの差である。それによって調査方法から調査できる古道の数まで、支部によって大きな制約が掛かってしまうことが明らかになっている。また、4月末に決定した古道の中には、古道があるエリアの支部では手が回らないため、調査をどこで行なうのか検討が必要なものもある。

また、各支部による調査方法だが、マンパワーが十分で同時並行で複数の古道を調査できる所もあるが、人が少ないため少人数で一つ一つの古道を順番に調査するしかないという支部もあることが分かった。20年前の中央分水嶺調査のときはまだ50代・60代だった会員たちが、今はおしなべて70代以上になってしまった支部と、その後も若い会員が入会し続けた支部との違いがパワーの差を生んでいるような気がする。とはいえ、支部の中には平均年齢が高いにもかかわらず、総力を挙げて古道調査に取り掛かっている所もある。ここにも、以前から指摘されてきた日本山岳会の一歩の課題が如実に浮かび上がっている。

12月下旬にプロジェクトで残りの古道を検討し、120の山岳古

道すべてを決定する作業を行なう予定だが、その検討も各支部の持つそれぞれの事情や要素を考慮して決めていかざるを得ない。ただ、各県1山岳古道、それも全国に万遍なく、という理想もできるだけ守っていきたいというのがプロジェクトの総意である。おそらく12月の検討では、それをどう塩梅し、どこに調査を依頼するかを含めて、様々な要素を見ながら真摯な議論がなされるはずである。

また、第1次調査古道に決定していたが、予備調査を行なったところ道が全く失われていて人が歩くことができず、ホームページや書籍で公表するのが難しいことが分かった「有峰の道から薬師岳参拝道」のような道(本文とは別にコラムで紹介する予定)もあり、そのあたりの扱いも検討されることになるはずである。

次の会報「山」では、決定した全120の古道のリストを公表することになる。できればその中で古道決定に至ったプロセスについても分かりやすく報告できたら、と考えている。

(全国山岳古道調査プロジェクト・リーダー)

REPORT

「山の天気ライブ授業」を摩耶山で実施

関西支部 重廣恒夫

創立120周年記念事業の一つとして、猪熊隆之会員をプロジェクト・リーダーにお願いして発足した「山の天気ライブ授業」は、これまで神奈川支部と越後支部で計画されながらコロナ禍のため実施できなかった。しかし、最近は感染者数が全国的に減少傾向にあるので11月上旬、やっと関西支部で実施できる運びとなった。

実施場所については金剛山や六甲山などが候補に挙がったが、座学の会場やライブ授業の場所の利



観天望気日和だった摩耶山でのライブ授業

便性を考えて「1000万ドルの夜景」で有名な摩耶山(日本三大夜景の一つ)に決定した。

主催…関西支部 後援…支部事業委員会

【机上講義】

開催日…11月6日(土) 開催場所…神戸学生青年センター 開催時間…13:30～16:30 参加者…27名
講義内容…気象遭難の種類／山と平地の天気の違い／気象遭難を防ぐための地図の活用などについて、スライド(89枚)・雲の画像などを用いて解説 質疑応答を行なった

【ライブ授業】

開催日…11月7日(日) 開催場所…摩耶山 開催時間…10:30～15:00 参加者…18名 講義内容…見える雲についての解説／地形による気象への影響／天気を悪化させる可能性がある雲があるかどうかなどについて、午前中は摩耶山・掬星台(標高690m)にて講義。当日は好天に恵まれたが北～東～南東

（南～南西方面にかけて雲の出現も多く、ライブ授業には好都合であった。

午後は摩耶山三角点(699m)を経由して南に下り、途中、史跡公園(610m)と展望台(220m)での講義を受けながら王子公園駅へと下った。

*いずれも参加者の「新型コロナウイルス感染症予防対策チェック・リスト」を作成し、3週間保管した。

「山の天気ライブ授業」を受講して

竹中雅幸

神戸で開催された「山の天気ライブ授業」に参加した。これまで山の天気について勉強をしたことはあるが、知識が断片的で根本的な理解ができていないと感じていた。講師の猪熊隆之さんについては以前から存じ上げており、著作も購入していたため、お会いできる機会となつた機会とあつて、すぐに参加を決めたのだ。雲を生き物、あるいは人のように語る猪熊さんとは、どんな方なのだろうという興味もあった。

初日の座学講習は、平地とは違う山ならではの気象リスク解説か

ら始まり、充実の内容であった。特に印象に残ったのは、湿度と風向き、風力を意識するということ。そもそもなぜ雲ができ、なぜ天気が悪化するのかということがストンと理解できた。これは国内だけでなくヒマラヤ登山などでも応用できる考え方であり、個人的には今回最大の収穫であったと感じている。

2日目は摩耶山でのライブ授業。当日は摩耶ケーブルの故障による運休とロープウェイが強風で運休するなどのハプニングがあつたが、当初の雨天予報から変わって、当日はあいにくの？ 晴天となった掬星台に集合した。時間とともに適度に雲が現われ、格好の観天望気日和であつた。「空気が切れる」「やる気のない雲」といった猪熊節解説の下、うね雲、わた雲などを観察した。雲については判別が難しく、繰り返し訓練が必要だと思われた。

貴重な機会を得たことに感謝するとともに、今後も猪熊さんの著作を参考に勉強を続けていきたいと考えている。雲の気持ちがいかに分かるようになった気がする2日間であつた。

追

OBITUARY

悼

渡邊玉枝さん、73歳の挑戦

村口德行

渡邊さんとは、1998年にガッシャーブルムⅡ峰（8035m）

で初めてお会いしました。最初の印象は、ベースキャンプで休養しているときでも、キッチンで休養して片付けなど裏方の仕事を一生懸命やる人だなど、そして、歩く姿を見て「この人はエベレストに登らなければいけない人だ」と思いました。

2002年、私から声をお掛けして、渡邊さんは63歳でエベレス



渡邊玉枝（わたなべ・たまえ）

会員番号11214

1938年 山梨県河口湖町生まれ
1963年 神奈川県庁職員として勤務し、県庁山岳会に入会
1977年 マッキンリー南壁登攀
1991年 チョー・オユー登頂
1994年 ダウラギリⅠ峰登頂
1998年 ガッシャーブルムⅡ峰登頂
2002年 エベレスト（ネパール側）登頂
2004年 ローツェ登頂
2012年 チョモランマ（中国側）登頂
2005年 「植村直己冒険賞」を受賞
2012年 エベレスト女性世界最高齢登頂がギネス世界記録に認定。著書に『63歳のエヴェレスト』（2003年、白水社刊）がある

ト（8848m）に初挑戦しました。当時、その年齢で頂上に立った女性はいませんでした。気負うこともなくスタートし、当たり前のように余裕で登ったのです。

04年のローツェ（8516m）ではペースが上がらず、相当苦労されました。深夜のルート工作や落石事故で負傷するトラブルに見舞われて時間をロスし、頂上までにかかる時間や酸素の残量から、登るか引き返すかの難しい判断を迫られました。とても頂上まで届かないと思われましたが、なんとか登り切ったのです。ベースキャンプ

プに無事戻って「よく登りましたね」と聞くと、「だって登りに来たんだからね」という返事が返ってきました。

渡邊さんは05年に自宅前の川に転落して、腰の骨を折る大怪我をしました。11年暮れになってエベレストのもう一つのルート、チベットの側から登ってみたいとの連絡をいただきました。73歳の自分が果たしてどれだけ登れるのか試したい、といった内容でした。

12年、私たちは3人のシェルパとともに頂上を目指しました。5月19日、強風の合間を衝いて、渡邊さんは73歳で再びエベレストに立ちました。奇跡のような瞬間です。なぜなら高所順応の期間は体調が悪く、普段は弾むように歩く渡邊さんの足が全然前に進みませんでした。とても登れそうな状態ではなかったからです。それでも徐々に体を高度に慣らしていき、一歩一歩登り続けて世界最高峰に立ったのです。その調整能力は見事でした。大怪我を乗り越え、2度目のエベレストで自身の持つ女性世界最高齢登頂記録を更新するという快挙を成し遂げました。

38歳、マッキンリー（現・デナリ）

南壁でテクニカルなクライミングを経験したのち、8000mを超えるヒマラヤで高所登山を体験しました。挑戦した海外の高峰は、信じられませんが登頂率が100%。これは驚異の数字です。圧倒的な登山経験と簡単にはあきらめない姿勢が、73歳でのエベレスト登頂を可能にしました。山の条件が悪くても、体調が優れなくても最後はきちんと結果を出す。穏やかな人柄の中に、驚くべき強さを兼ね備えたクライマーでした。

チベットからカトマンズに戻って、渡邊さんは各国のメディアからたくさん取材を受けました。「メジャーな山に登っただけなのにね」。渡邊さんにとって自分の樹立した記録など、どうでもよかったのかもしれない。

「またヒマラヤでもぶらぶら歩きたいですね」。そんな会話をしてから1ヶ月もしないうちに、急に体調を崩されたようでした。1938年、山梨県富士河口湖町に生まれ育ち、2021年8月2日、大腸癌のため82歳にして永眠されました。ご冥福をお祈りいたします。

（映像カメラマン、日本大学山岳部OB）

藤木高嶺さんを偲んで

重廣恒夫

藤木高嶺さんはRCCの創立者

で、北穂高岳・滝谷の初登攀や渡欧中の秩父宮殿下のマッターホルン登頂に随行した藤木九三さん(893、名譽会員)の三男として、1926(大正15)年9月2日に、西宮市甲子園で誕生されました。「高嶺」の名前は当時、九三氏が朝日新聞社の語学留学生兼特派員として滞在していたロンドンから、「もうすぐ生まれる子どもが男の子だったら漢字で『高嶺』と書き、女の子だったら『たかね』とするように」と送った手紙に由来するそうです。

46(昭和21)年、関西学院大学予科に入学後は山岳部に所属し、父親の薫陶を受けた岩登りに没頭。



藤木高嶺(ふじき・たかね)

会員番号3915

1926年9月2日 兵庫県西宮市生まれ
 関西学院大学文学部卒業
 51年 朝日新聞社に入社、写真部、社会部記者、編集委員を歴任 大阪国際大学名誉教授(文化人類学)
 61年 アンデス・ワスカラン北峰登頂
 73年 第2次RCCエベレスト登山隊
 81年 カラコルムクラブ隊コンゲール本多勝一記者との極地探検報道、戦争報道で活躍。第12回菊池寛賞、第5回大同生命国際文化基金地域研究特別賞を受賞。主な著書に『インディオの秘境』『幻のノイ族』『ああ南壁』『極限の山・幻の民』『天葬の国・高原の民』など。

大学卒業後は朝日放送の1期生として入社するも、7月には朝日新聞社に入社、写真部記者としての活躍が始まりました。

61(昭和36)年には、関西学院大学ペルー・アンデス探検隊の副隊長として参加、自らもワスカラン北峰(6654m)に登頂されています。63(昭和38)年1月には、北アルプス・薬師岳で発生した愛知大学山岳部パーティ13人の遭難事故の取材に本多勝一記者とともに10日間にわたって現場を取材、これが縁となって『カナダ・エスキモー』『ニューギニア高地人』『アラビア遊牧民』の『極限の民族』3部作が生まれました。67(昭和42)

年、本多さんとのコンビの最後となるベトナム戦争取材では、米軍に従軍したり、北ベトナムの解放戦線に潜入したりして危険な戦争

の現場を取材されました。

私と藤木さんの出会いは、73(昭和48)年に第2次RCCが派遣した「日本エベレスト登山隊」のエベレスト南壁(南西壁)登山の折でした。朝日新聞と東京放送の後援でしたので、藤木さんは朝日新聞の特派員として参加されていました。帰国後、編集委員となられてからはお互いの家が近いこともあって、関係されている団体の会合に引っぱり出されたり、酒席に呼んでもらったりしたものです。また、その後のヒマラヤ登山でも随分とお世話になりました。

82(昭和57)年、朝日カルチャー講座の受講者や探検調査旅行参加者、大学の教え子の人たちによって「高嶺会」が設立されました。前後して多くのヨットマンや、自転車で世界一周、リヤカーを引いてサハラ砂漠を横断、ヒマラヤの高峰からのハンゲグライダー飛行などを試みる冒険者たちの支援に力を注がれました。また、2014年11月号から17年8月号まで、『岳人』に「山に生きる父と子の170年」と題して、父藤木九三氏の生きざまや数々の取材の思い出を連載され、好評でした。

藤木さんのJAC入会は1951(昭和26)年、紹介者は太田敬さん(1809、名譽会員)でした。太田さんが慶應大学卒業後入社された東京海上の大阪支店勤務時代に、関西支部の委員をされていたことによるものだと思います。

芦屋ロックガーデンの入り口、高座の滝の横には、佐藤久一朗さん(1630、名譽会員)の手になる藤木九三さんのレリーフがはめ込まれ、毎年9月末に関西支部・兵庫県・大阪府山岳連盟が主催する「藤木祭」が催されています。藤木さんは毎年参加されていました。藤木さんは19(令和元)年が最後となりました。

本年2月より入院していました。9月29日、腎不全のため亡くなりました。享年96。110回にも及ぶ海外探訪と取材の生涯でした。法名は「検院釋廣嶺」(探検家であり、秘境を目指し、その楽しみを広く世に知らせた山男)。

藤木さんの魅力は、海外探訪を話されるとき独特の語り口と風貌でした。告別式・法要で見た子どもたちが描いたという肖像画が、それを思い出させてくれました。

(関西支部評議員)

連載■島の山旅への誘い12〈最終回〉

伊豆諸島

—三原山、宮塚山、天上山、御山、八丈富士など

原邦三

伊豆諸島の山概説

東京から約120 km南に位置する最大の大島をはじめ、9つの有人島が列をなして洋上に浮かんでいるのが伊豆諸島である。

房総半島沖から南東方向に伊豆・小笠原海溝が連なっているが、フィリピン海プレートに太平洋プレートが沈み込むことによってできた海溝で、沈んだプレートは伊豆・小笠原諸島付近でマグマとなつて上昇し、伊豆・小笠原島弧と

呼ばれる火山列島を誕生させたのである。したがって、伊豆諸島の島々はいずれも火山もしくはカルデラ式海底火山の外輪山が海面より高くなったもので、1983年と2000年の三宅島や1986年の大島のように、活発な火山活動を繰り返している島もある。

伊豆諸島は、島旅ファンはもとより登山者にも人気で、いくつかの山が登山対象となっている。ちなみに、公益財団法人・日本離島センターが選定した「しま山100選」では、大島・三原山、利島・宮塚山、新島・宮塚山、式根島・丸山、神津島・天上山、御蔵島・長滝山、八丈島・八丈富士、青ヶ島・大凸部の8山が選ばれている。

主な山の登山ガイド

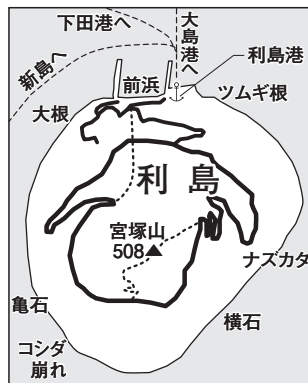
▲大島・三原山

あんこ椿と御神火で知られる大島の中心に位置するのが三原山(758m)。登山口は御神火スカイラインの終点・三原山頂口で、

ここから山頂遊歩道を登つてお鉢めぐりをするのが一般的(2時間20分)。ここでは山頂口から表砂漠コースを経て内輪山に上がり、お鉢めぐりをして大島温泉ホテルに下山するプランを紹介しよう。

山頂口から外輪山の内壁に沿つて火口原を進むが、黒いスコリア(火山砕屑物)に覆われた道で、ここがかつての表砂漠だ。途中から崩れやすい斜面を登って内輪山の縁に上がり、お鉢めぐりの歩道に合流。三原新山、剣ヶ峰と巡って北側の温泉コース分岐に至る。今も噴煙を上げる、巨大な中央火口を見下ろしながらのお鉢めぐりはダイナミックで、富士山や伊豆半島、房総半島などの大パノラマとともに大いに楽しませてくれる。

温泉コース分岐の眼下にあるのが1986年に発生した「割れ目噴火」の現場で、往時をしのばせる生々しい火口と溶岩流の堆積が見



もの。途中、「風の丘」から寄り道して裏砂漠の一部を見物、大島温泉ホテルに下るのが良かろう(所要約3時間20分)。

▲利島・宮塚山

美しいピラミッド型をしている利島の宮塚山(508m)は、古くから海上を行く人々の目印となってきた。山腹にはシイやタブなど



今も噴煙を上げる三原山の火口内壁と中央火口



の常緑照葉樹林が目につくが、最も多いのが島全体の8割を覆うヤブツバキの森で、山頂近くまで椿畑が拓かれている。

ルートは前浜の集落を抜け、小さな堂山神社を右に見て椿畑の中の石畳道に入る。やがて地図にある浄水場を過ぎて島を一周する都道に入る。ほぼ半周して南側にある、村民から一番神様と呼ばれ親しまれている阿豆佐和気命本宮から山道に入る。

段下がった所に展望台がある。天氣の良い日には大島や伊豆半島、遠く富士山まで望むことができる。

下山路はさらに急下降だ。一気に下って都道と合流すると、ウスイゴウ園地(朝日の射す所の意)と三番神様(下上神社)がある。ヘアピンカーブを下って分岐で西へ向かえば、登りに通過した浄水場と出会う(所要約3時間30分)。

▲神津島・天上山

神津島は東京から南に178km、伊豆諸島のほぼ中間に位置する。農業・漁業・観光を柱に経済活動は堅調だが、中でも観光部門の天上山(572m)登山は「島の山旅」の対象として近年、大いに人気を博している。

とりわけ植生の特性は特筆されるべきもので、コウゾエビネなど固有種や希少種が多数生育している。特に5月に咲くオオシマツツジは白砂によく映えて、天上山の売り物の一つになっている。

代表的な登山コースは、西側の神津島



二等三角点がひっそりとたたずむ宮塚山山頂

村中心部から黒島登山口を経て頂上台地へ向かい、反時計回りに頂上を回遊して、白島下山口から村の中心部へ戻るもの。

登山口から急傾斜で続く灌木帯の中を、ひたすら登っていく。背後は太平洋の大海原だ。やがて頂上台地の黒島十合目に到着。ここから広い頂上部を巡る。展望の良いオロシヤの石罫、千代池を経て月面を思わせる表砂漠へ。

表砂漠から南に転じ裏砂漠に向かう。白砂の上に盛り上がるように咲くオオシマツツジの群落が美しい。その先、三宅島を望む裏砂漠展望地から緩い起伏を北へ進み、新東京百景展望地、旧火口跡の不



広大な天上山・裏砂漠を行く 撮影=前田正代

動池を過ぎる。ここから西に向かい、天上山最高点に立つ。この山の魅力は、なんと言っても頂上各所の展望台から見られる太平洋と島々の眺めだ。

展望を満喫したら、山頂台地西側の縁をたどり、白島下山口に向かう。下山口から白島登山口へ標高差300mほどを一気に下った後、車道をたどって今日の宿へと向かう(所要約6時間)。

▲御蔵島・長瀧山、御山

御蔵島は東京から200km南に位置している周囲16km、直径5kmほどの小さな島である。丸い形をしていて入り江がなく、棧橋が太平洋の黒潮の中へ突き出ているた



長滝山から見た御山。手前のピークは一の森 撮影=柳瀬美緒

め今でも客船の運航が不安定で、運が良ければ上陸できる。

登山コースとしては、長滝山(850m)、御山(851m)、乙女峠コースなどがある。長滝山コースは半日で行ける最も眺望の良いコースで、登山口の標高670m付近までは車で向かい、山頂までは1時間程度の登山となる。なお、登山口の南方にある御代が池(540m)を訪れることもできる。

長滝山は標高800mの所に三等三角点があり、地図上では800mと誤って認識されることが多いが、山頂の巖が原は850mあり、御蔵島最高峰の御山山頂とほぼ同じ高さ。山頂からは、1万年

以上前の噴火でできた溶岩の塊である一の森(787m)を見下ろし、その後ろには御山の稜線が眺められる。

長滝山から御山の山頂まではさらに30〜40分。一度一の森の根元まで下ってまた登るので、アップダウンが繰り返される。視界が開けている長滝山山頂と比べると、登り着いた御山山頂はなだらかで、2mを超すオヤマノタケに覆われている。そのため、車道が通っていない南側の谷を覗けるように一部刈り込まれている場所以外は、ササの迷路のようである。御山山頂には二等三角点がある。

縦走の場合には尾根をさらに先に進み、標高600mの乙女峠を目指す。ここからは長滝山・御山の稜線を一望できる。

たつた標高850mしかない山々だが、強い風と濃霧が出やすい地形のため標高700mから上は寒冷地帯や高山と同じような環境で、低木とササに覆われている。特に夏場には濃霧により木々に水滴が付き、それが雨のようにしとしと降る「樹雨」状態になり、豊かな水をたたえる島となっている。

梅雨時期から台風シーズンが終



三原山の山頂付近から見た八丈富士と八丈小島

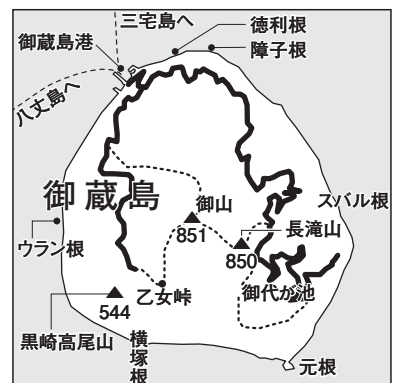
わるまでの夏の間は、山は霧に覆われていることがほとんどなので、登山は秋から翌年の春がお勧め。ただし、冬は時化のため客船の運航率がぐっと下がるので要注意。

(この項執筆=柳瀬美緒(東京都認定御蔵島ガイド、御蔵島在住))

▲八丈島・八丈富士

東京都心から南へ290km、黒潮圏の洋上に浮かぶヒョウタン型の島が八丈島だ。島の北西部にそびえる秀麗なコニーデ型が八丈富士(854m)で「西山」。一方、南東部に位置し、対照的にどっしりとした風貌の三原山(701m)は「東山」と呼ばれている。

八丈富士の登山は七合目から始



まる。登山口からお鉢めぐりのスタート地点となる分岐点まで、1280段のコンクリート階段を歩く。分岐点に立つと、火口壁のダイナミックな景観が目飛び込んでくる。火口の直径は400m、深さは50mといい、慶長10(1605)年の噴火を最後に活動を停止している。

お鉢めぐりは時計回りの一方通行。小さな木片の指導標を追って進むが、所々火山活動で生じた小穴や滑りやすい岩場があるので、足元に注意して歩きたい。20分ほどで石柱が立つ八丈富士山頂に着く。対面の三原山や空港周辺の街並みを見下ろして一服しよう。

西側に来ると、道が火口壁に接近するので慎重に。眼下の大海原に八丈小島が浮かんでいる。約1



カルデラ縁の稜線に飛び出して見た三原山山頂

時間、ほぼ円形に一周してスタート地点の分岐点に戻る。時間があれば、火口内に降りてみよう。八丈富士だけに浅間神社があり、「小穴」と呼ばれる陥没地形や中央火口丘が見物できる(所要約3時間)。

▲八丈島・三原山

三原山は南面に直径1kmのカルデラと2つの噴火口を持ち、端正な八丈富士とは対照的に、浸食の進んだ地形が特徴だ。

ここでは北西面から登り、南面に降りる縦断コースを紹介しよう。町の中心から車で防衛道路を上がり、標高約400mの登山口に着く。立派な指導標を確認して、簡易舗装の山道に入る。しばらく行

ってNTTの中継アンテナ塔を過ぎると、その脇から登山用の狭いコンクリート階段道となる。ツバキやアオキなどが密生した樹林の中を根気良く高度を上げると、やがてカルデラ縁の稜線に飛び出す。一気に展望が開け、八丈富士と八丈小島の絶景が待っている。

やっと土の道に変わり、カルデラ壁に沿ってほぼ平らな稜線を10分ほど進むと、防災無線のアンテナの横を通り抜けて狭い山頂に立つ。山頂からは舗装された車道を下り、30分ほどで三原林道に合流する。後は東台子山を回り込んで、ひたすら林道歩きを続ける。唐滝川に架かる「一つ橋」の手前に、唐滝・硫黄沼探訪コースの道標がある。余裕があれば立ち寄ってみたい(往復2時間弱)。さらに20分ほど下れば檜立登山口で、縦断を終わる(所要3時間10分)。

山旅のメモ

伊豆諸島の各島へのアクセスは、東海汽船の大型客船とジェットフォイルが運航している。大型客船は東京―竹芝―大島―利島―新島―式根島―神津島と、竹芝―三宅島―御蔵島―八丈島の航路がある。

ジェットフォイルは竹芝または熱海―大島―利島―新島―式根島―神津島に就航(季節運航あり)。東海汽船お客様センター ☎03-5472-9999。

空路は羽田空港―八丈島空港をANAが運航している。また、大島―利島、八丈島―御蔵島、三宅島―御蔵島をヘリコプターで渡ることができる。特に利島と御蔵島は波が高いと大型客船、ジェットフォイルともに着岸できず、スルーされることがあるので、ヘリ利用の方が確実だ。東京愛らんどシヤトル ☎04996-21522

2(東邦航空予約センター)。

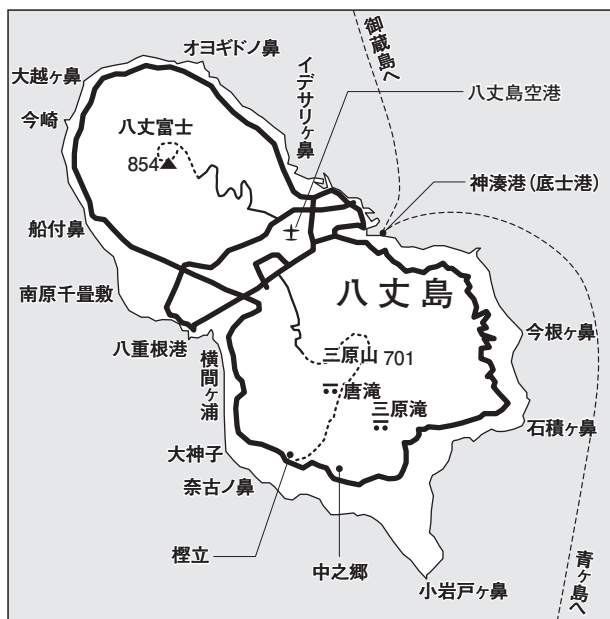
登山・宿泊情報

に関しては各島の観光協会等に問い合わせる。特に御蔵島の山へ入るには、ほとんどのコースで東京都認定ガイドの同行が必要となる(有料)。また、雨天時にはガイド

コースの利用が不可となる。

なお、利島や御蔵島は宿泊施設が小規模な上に、イルカ・ウォッチングのシーズン(4月～11月)には混むので、早めに宿泊先を確保してからガイドの予約をするとうい。大島観光協会 ☎049922-12177 利島村役場 ☎049922-9290011 神津島観光協会 ☎049922-80321 御蔵島観光協会 ☎049948-022 八丈町観光協会 ☎049962-1377。

(会報編集委員会委員)



東 西 南 北

N

S

群馬のヤブ山②

ハックリ山(1055m)

大丸山(1031m)

中山達也

・安中市松井田町

・2・5万図「軽井沢」

・2007年3月初旬登山

ハックリ山、大丸山とも2・5

万図には山名の記載はなく、ほとんど登られていない山だろう。2山とも霧積温泉に向かう県道56号の右(東)側にある。もう少し分かりやすく書くと、国道18号の横川駅前を過ぎ旧道に入る。坂本の町中を過ぎS字カーブで登ると、右に霧積温泉の案内がある。この案内に従い右折すると県道56号。霧積ダムを右下に見て、新幹線下をくぐり、左に大きくカーブすると正面に見えてくる三角形の山がハックリ山で、その右に肩をいからせているのが大丸山になる。地形

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。(紙面に限りがありますので、1点につき1000字程度でお願いします)



作業道先の鞍部から見たハックリ山

図で位置をよく確認してほしい。

▽ハックリ山(登り約30分)

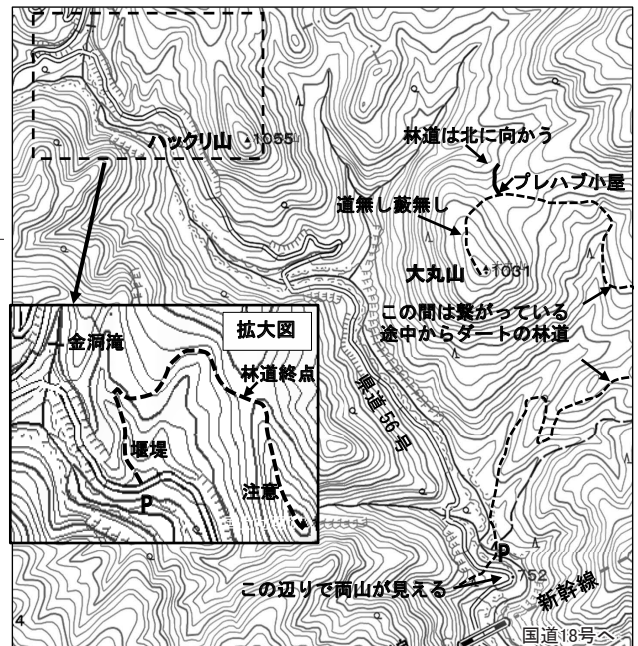
県道終点(旧きりずみ館跡)手前右手の橋から金洞滝が見える。さらにその手前、右手に上下2つ堰堤があり、上の堰堤が登山口になる(P付近)。ここは向かって右の作業道跡から入った。堰堤の上で道があやふやになるが、左に1段

上がると明瞭な林道があった。この道はどこから来ているのか不明だが、堰堤のある小沢を西から東に回り込むように続いていて、北からハックリ山に続く尾根の鞍部手前で終点になる。

そのまま薄い踏み跡をたどり、尾根に乗る。地形図に表示されない小さなピークを越えると大岩の前に出る。右(西側)から回り込めるがやせた尾根上なので、慎重に行動しよう。さらに右から巻くように登ると山頂に出る。ピンクテープが下がっているだけ。雑木はまだ裸木だったが展望は良くない。

▽大丸山(登り約40分)

新幹線をくぐり、両山を一瞬見て少し走ると右に分岐があり、橋が架かっている。この橋を渡り林



道を行く。当時、大丸山北東の鞍部まで車が入れたが、橋を渡ったすぐ先の路肩に止めた(P)。現在は橋を渡るとすぐゲートが有るらしい。

知人は林道に沿う沢を詰めたが、上部は金属の側溝になり面白味がないとのこと。多少遠回りでも林道を歩くことにした。林道は谷を東から西に回り込んで大丸山北東の鞍部に出て、さらに北へ尾根を回り込んでいく。

当時、広い鞍部には工事現場のプレハブが立っていた。その前か

ら南を目指して登る。明るい雑木の斜面でヤブもなく、難なく山頂に立てた。ハッキリ山同様、テープが下がっているだけで標識はない。展望も雑木でほとんど得られない。GPSの軌跡を間違つて消してしまい、ほぼ同時期に歩いた知人

の軌跡(大丸山は帰りの軌跡)を使用して破線を作成したが、正確ではない。
〔注〕記述は登った当時の状況で、現状は分からない。地図、コンパス(GPS)は必携。

(群馬支部)

活動報告

日本山岳会の
各委員会、同好会の
活動報告です。

山行委員会

熊野古道・伊勢路を歩く

新型コロナウイルス対策のための緊急事態宣言が明けた10月13(17日、4泊5日)で熊野古道・伊勢路を歩いた。

10月13日、前泊した紀伊長島の宿の車で梅ヶ谷まで移動。本日の行程はツヅラト峠から一石峠、平方峠、三浦峠を経て三野瀬までを歩いて前日と同じ宿に泊まる。梅ヶ谷から舗装路を歩く。美しく手入れされたヒノキ林を抜けてツヅラト峠に入る。山ビルはいない様

子で安心した。40分ほどで峠に着。熊野灘がよく見えた。風もあり、気持ちの良いスタートとなった。ツヅラト峠を越えて舗装路を歩き2時間、一石峠、平方峠、三浦峠を越えて三野瀬駅に着くと、宿の車が待っていた。夕食は熊野灘ならではの海の幸のごちそうにメンバー全員大満足だった。
翌14日の予定は、三野瀬駅から始神峠、馬越峠を経て尾鷲までだ。始神峠は江戸道と明治道がある。私たちは江戸道を選択。山坂道であるが、登り口から40分で始神峠に到着した。峠では珍しい植物、イ

ワオモダカを見た。下りはきれいに残る石積み跡を見ながら舗装路歩きになり、2時間半。道の駅「海山」で昼食休憩。足の指が痛くて登山靴、靴下まで脱いでストレッチする。

海山から始まる馬越峠は伊勢路の中でも特に人気のある古道らしく、初めて人と行き交う。平坦にびっしりと敷き詰められた大きな自然石からなる石畳が、2kmにわたりヒノキ林の中に続いている。

コケで滑りやすく、集中力が必要とした。峠を経て再び舗装路を歩いて今宵の宿、尾鷲のホテル着。

15日の予定は、尾鷲から八鬼山越え、三木峠、羽後峠を経て賀田



2kmにわたる馬越峠の石畳の急坂を登る

駅から電車で熊野のホテルまでだ。尾鷲から1時間の舗装路歩きで八鬼山の登り口に到着。今回の旅で唯一山らしい道を登る。大小の石からなる石畳が登り口から断続的に続く。行き倒れの巡礼供養碑に手を合わせて、先頭を歩く中坪さんの後に続く。ペースが良くとても歩きやすい。石仏が絶え間なく鎮座する難所の七曲がりを過ぎ、九木峠近くなると巨石がごろごろと出てきた。

八鬼山山頂直下に立つ新神堂は新しく、木の香りが充満していた。下りは急坂となる。コケの着いた石畳は滑りやすく、慎重に降りた。舗装路歩きで三里駅に着いたのは14時20分。これから2つの峠を経て賀田駅まで歩く予定であったが時間的に厳しく、本日の行程は終了。熊野駅近くのホテルに向かった。

16日の予定は、前日割愛した三木峠と羽後峠は省いて、二木島峠、逢神峠、波田須の道、大吹峠、松本峠を経て熊野まで歩く。波田須の道は鎌倉期のもので、伊勢街道では一番古い石畳が残っている。重厚で大きく、敷き方も豪快である。波田須神社参拝後は左手に海、

右手に石畳や棚田を見ながら大吹峠を経て、松本峠に入る。この峠には、立てられたその日に妖怪と間違われて鉄砲で撃たれ、傷のついた大きなお地藏様があった。峠から15分で舗装路に出てホテルまで歩いた。17日は各自、帰途について。

今回の伊勢路は晴天が続き、13日に小雨がぱらついた程度。暑い日の中であつたが、ゆったり紀伊長島の海を見ながら各峠の石畳に感嘆し、静かなヒノキ林の中を歩くことができた。メンバーの穏やかな雰囲気の下、楽しく無事に終えたことを感謝します。

(静岡支部・赤堀栄子)

科学委員会

富士山南麓 ブナの巨木と溶岩洞窟・溶岩樹形の観察

11月28日、科学委員会の研修山行を開催。講師5名を含む17名の参加の下、ふじさん1号で8時過ぎに御殿場駅集合。約40分間ほぼ貸切状況のバスで、秀麗な富士山を眼前に眺めながら水ヶ塚公園に着。平野委員長の山行開始宣言後、すぐに富士山スカイラインを横断

須山口登山歩道入り口の看板前で火山学者の2人の講師(中野/福岡両氏)から、宝永火口第1〜第3火口の表示は噴火の時代別ではなく、高度の高い所からの番号であることや、宝永噴火は大規模だったが溶岩流はなく、多量の噴石や火山灰被害が大きかったこと、新道路建設が成され登山道の合目表示が、須山下山道の二合五勺よりもはるか低い所に御殿場口の新5合目がある、との説明があつた。

伐採木輸送のために造られた森林鉄道の跡や植林と分かる列状のウラジロモミの木立の中に、樹齢数百年と思われるヒノキやツガの巨樹を見る。根元にフラス(昆虫などが排出する糞や木くず)のあるミズナラは、カシノナガキクイムシの仕業だ、と森林インストラクターの2人の講師(平野/米倉両氏)の説明が入る。

ときたまヒコサンヒメシヤラが出てくると、ブナの巨木地点に到達。比較的若いブナから、すでに枯死寸前のブナまで10本ほどが見られる場所で昼食。この後、中野講師も調査に携わった富士山全体の溶岩流の年代測定によって作成された地質図を用いて、溶岩流が

遠く三島や猿橋まで流れたことや、山麓各地に点在する多数の側火山の存在など詳細な説明があつた。

森林生態学に詳しい近藤(雅)講師から、ブナの実の3つの部屋に収まった3つの種の実物を搜していただき、ブナ、イヌブナの違いを聞く。

その後、須山御胎内に到着。御胎内は溶岩流の表面が固まった後、内部のまだ固化しない粘性の低い溶岩が流れ出てトンネル状になったものであるという説明を受け、浅黄塚近くの溶岩樹形も見学する。溶岩流に飲み込まれた樹木が燃え尽きて空洞化した溶岩樹形が山麓に多数存在することなどを学ぶ。この後、バスで御殿場に出て解散した。今回の山行に当たり、JACのメンバーで裾野山岳会の勝俣氏に、下見会も含め大変お世話になりました。感謝申し上げます。

(平野裕也、伊藤謙二・記)

図書委員会

『山と高原地図』編集長・宇田川友道氏講演会

11月11日(木)、本部集会室およびZOOMの併用により、マウンテン

カルチャークラブとの共催で、昭文社『山と高原地図』編集長・宇田川友道氏をゲストにお迎えして、同書の歴史と編集の裏話? について講演をいただいた。

『山と高原地図』は、全国の山城を網羅しているコンパクトな地図で、多くの会員の皆様にとって、馴染み深いロングセラーの刊行物と言えるだろう。当日は、宇田川氏とともに編集に携わる女性社員の方も一緒に見えになった。

会場では、普段は見ることのできない創刊当初のものをはじめとするバックナンバーや、各山城を担当する著者の先生方から送られてきた校正原稿の現物などを拝見させていただいた。『山と高原地図』のシリーズはわずか3名のスタッフで編集を担当されているそう、著者の先生方との打ち合わせのために、1週間の間に全国を行脚された弾丸出張の苦労話や、併売されているアプリ版の話題はもうろんのこと、創刊当初からの表紙のデザインの変遷やそれにまつわるエピソード、そして、地図本体に使われる原紙の変遷に至るまで、ユーザーにとって興味深い話題が盛りだくさんだった。

Zoomでの参加者は、貴重な資料を手にとって見る事ができず、残念だったかもしれないが、コロナ禍が落ち着き、今回のようなZ

oom併用の講演会を久しぶりに開催できたことに参加者は大満足であった。

(床田真理)

支部

だより

全国各地の支部から、それぞれの活動状況を、北から南へとレポートします。

福井支部

福井支部30周年記念集会 ―コロナ下の式典・祝賀会を振り返る

福井支部は1991年11月14日、日本山岳会理事会において全国22番目の支部として承認、設立された。当時は第2代支部長・宮本数男氏を先頭に、海外の高峰を目指す遠征登山が盛んで、マッキンリー登山やチベットの未踏峰12峰の初登頂などを記録し、会員数も70名を超えるに至った。しかし、20周年を終えたところには支部員の高齢化と数の減少に陥り、一時は近隣支部との合併を勧められる有り様だった。このころ、日本山岳会

の公益財団法人化が行なわれ、公益事業として森作りと泰澄祭、支部会員向けに定例山行の充実を図り、ひいては会員増を目指した。結果、毎年新規入会者が続いており、少しずつ若返りの方向に向かっていく。

昨年からの新型コロナウイルス感染症の流行は、我々の行動にも少なからず影響した。そんな状況で支部30周年を迎えることとなり、4月の支部総会では、コロナワクチンが行き渡る11月ごろには多分沈静化してくるであろうと予測して実施の方向性を決めた。大まかな計画と役割分担を決定し、具体的な動きは8月から開始した。県外からの参加を極力抑え、感染対

策を十分に行なった、小規模な集会を目指した。実際、11月に入ると国内のコロナ感染は急速に縮小し、緊急事態宣言が解除されて、無事30周年を開催することができた。11月13日(土)の集会当日、本部から古野会長、坂井副会長、神崎評議員、加えて福井県山岳連盟会長山本氏を迎え、富山、石川、岐阜、京都・滋賀支部から9名のご参加、福井支部員を含めて39名の集会になった。

14時から船田事務局長の司会で式典を開始。物故支部会員への黙祷、支部長挨拶、来賓祝辞、山岳エッセイスト増永迪男氏の講演「登山家賢治」、記念撮影と進んだ。



武周ヶ池での記念撮影

この間マスク着用が厳守され、写真撮影の直前に写真屋さんから「マスクを外して笑って」の号令があった。地元の小楽団「ロス・アミーゴス」の演奏を楽しんだ後、山田会員の司会で祝賀会が始まり、牧野会員の挨拶、関会員の乾杯で開宴となった。コロナ感染対策として、各テーブル上のアクリル板仕切り、飲み物はウェイターが注ぎ、マスク会話、大声禁止といったルールが守られる中で和やかな祝宴となった。最後は小寺会員の指揮の下、全員で「雪山讃歌」を合唱して定刻18時に散会した。

寄附金および助成金などの受入報告

(令和3年11月30日まで)

寄附者など	受入金額など (単位:千円)	寄附の目的、そのほか
坂井 広志 会員	10	日本山岳会運営資金寄附
中山 茂樹 会員	100	学生部の活動支援寄附金
笠原 正明 会員	20	日本山岳会運営資金寄附 (永年会員からの寄附)

コロナ禍で晩餐会が中止となる中、ご参会いただいた古野会長はじめ皆様に感謝申し上げます。

翌14日(日)には支部山行委員会による記念山行「野見ヶ岳・武周ヶ池」が秋晴れの下、実施され、古野会長にもご参加いただき晩秋の紅葉を楽しんだ。

(福井支部長・森田信人)

四国支部

第9回小島烏水祭を開き、 温故知新を決意

第9回小島烏水祭(本部主催、四国支部主管)が11月13日、香川県高松市の峰山公園にある「はにわつ子広場」で開かれた。コロナ禍のため2年連続で行事を省略し、全国にも呼び掛けず、四国支部会員18名と来賓の鎌田守恭香川県議らが参加。会の創立時を振り返るとともにJAC創立120周年に向け、温故知新をモットーとすることを決意した。

午前11時、やや曇り空の下、尾野益大・四国支部長が「この日1日は日本山岳会の発起人の代表、烏水について思いを巡らせましょう」と挨拶して開会。鎌田県議、尾

上昇第23代会長が挨拶した後、届けられた古野淳会長、重廣恒夫元副会長、神崎忠男元副会長の祝辞が以下のように読み上げられた。

「山岳会立ち上げには烏水の強力なリーダーシップがあった。烏水の意思を受け継ぎ、山に溶け、自然に合して私たちも活動しましょう」「120周年に向け温故知新です。先人の遺徳を振り返り、新しい山岳会の在り方を考えましょう」「先人に敬意を表してアルピニズムを究め、登山の真価に誇りと自信を授かりたい」。

続く献花では、烏水の孫を代表して神奈川県鎌倉市から駆け付けた相良泰子会員、ひ孫の相良嘉洋会員ら十数人が順番にピンクのカーネーションを持ち、烏水のレリーフが埋め込まれた顕彰碑に手向けた。四国支部の向井幸雄・小島烏水祭担当理事の言葉で閉会した後、参加者全員が顕彰碑の前に並んで記念撮影をした。

この後、希望者が高松市内のホテルで昼食。1人ずつ近況を報告した。この中で、女性数人がげん息や骨折をしながらも「山に行けない期間はつらかった。治療を終えると、山登りはやめられませんか」

「海外登山助成対象登山計画」 2022年前期受付中

海外登山助成委員会

海外登山助成金は2020年より、新型コロナウイルス感染状況を鑑み締め切りを設けずに受け付けておりましたが、2022年前期については、2022年2月5日を締め切りとします。

●対象期間：2022年2月1日～7月31日の間に海外の山へ出発する登山隊

●申込み方法

1) 所定の様式をJAC事務局に請求

2) 記入後、計画書と併せてメールもしくは郵送で

●申込み締切：2022年2月5日(当日消印有効)

●審査と助成：2022年2月中に委員会で審査後、理事会で助成決定

●報告と記録掲載：助成対象となった登山隊は下山後、報告書を提出してください。また、会報「山」や機関誌「山岳」に掲載する記事にもご協力ください。

●問合せ・申込み先：JAC事務局 ☎03-3261-4433 (月火木10時～、水金13時～、第1・3・5土10時～)
✉jac-room@jac.or.jp、件名「海外登山助成対象登山計画送付」 住所：〒102-0081 東京都千代田区四番町5番4 サンビューハイツ四番町

無理はしません」と話し、会場から微笑みを誘った。

高松市の藤井博会員が、山登りを始める前に、水泳で国体に参加したりフルマラソンで好記録を生んだりするなど、ほかの会員が知らない秘めた過去を明らかにして「すごい」と驚嘆を誘う場面もあった。

支部内では、スキーのベテラン、今井順一会員に続き、数藤圭二郎会員の入会もあったことから、ここ最近、スキーを始めたたり再開したりする会員が増加。「スキー部

を発足させましょう」と呼び掛けるなど、今後の抱負を語る人も相次いだ。

四国支部は来年、創立10周年を迎えるが「あつという間だった」と感慨を語る人や、コロナウイルス感染の今後を憂う人たちも多かった。しかし全員が、どんな社会になっても近代登山を生み、一般の人たちに登山の楽しみを教えてくれた小島烏水の功績は計り知れない、という思いを新たにしていたことであつた。

(四国支部長・尾野益大)

本書はタイトルのとおり、全国の「山」を扱った「美術館」や「博物館」を写真付きで紹介している、いわゆる「ガイドブック」だが、山を志す者にはぜひ手に取ってみることをお勧めする内容である。

「美術館」や「博物館」というと、大都会の中に建てられた大きな近代的な建物の中に、絵画、写真、史料などが展示パネルとともに展示されている所だというイメージが強いかもしれないし、実際のところ、このような施設は多くある。一方で、山の中にひっそりと立つ小さな「私設美術館」もある。後者は



2021年8月
(株)G.B.
A5判 160頁
1680円+税

全国山の美術館と博物館

山田容子編



図書紹介

あまり知られていない地味な存在ではあるものの、創設者の展示品に対する思い入れが強く表われている。本書では、都道府県や市町村、国立大学などが管理および運営している、いわば公共施設的なもののみならず、このような小さな私設の施設も紹介されており、バラエティーに富んだ内容となっている。

これらの施設を、本書は3つのカテゴリーに分けて紹介している。1つ目は、「山を愛でるアート施設」。私設美術館では、『北のアルプ美術館』（北海道斜里町）や『日野春アルプ美術館』（山梨県北杜市）など、公設施設では、『フジヤマミュージアム』（山梨県富士吉田市）や『富岡市立妙義ふるさと美術館』（群馬県富岡市）など、合計14施設が紹介されている。2つ目は、「山を知って楽しむ施設」。公設施設を中心に19施設紹介されて

図書受入報告(2021年11月)

著者	書名	頁/サイズ	発行者	発行年	寄贈/購入別
大武美緒子(著)	不思議な山名個性の山名(じっぴコンパクト新書 No.389)	192p/18cm	実業之日本社	2021	出版社寄贈
中村みつを(絵)					
白井聡一・松川征夫(編)	20年の歩み : 日本山岳会 高尾の森づくりの会	192p/26cm	JAC高尾の森づくりの会	2021	発行者寄贈
中田修	南極のスコット雑記	249p/19cm	羽衣出版	2021	著者寄贈
大武仁	失敗から学ぶ登山術(ヤマケイ新書 No.YS062)	191p/18cm	山と溪谷社	2021	出版社寄贈
佐々木亨	地図アプリで始める山の地図読み	112p/21cm	山と溪谷社	2021	出版社寄贈
地平線月見西報制作室(編)	地平線月見西報 : 地平線通信全予告面集	288p/21cm	地平線会議	2009	会員寄贈
地平線通信全号復刻プロジェクト(編)	地平線大雲海 : 地平線通信全記録 0号~300号	1152p/21cm	地平線会議	2004	会員寄贈
地平線会議(編)	写真展「地平線発」 : 21世紀の旅人たちへ	18cm	地平線会議	1997	会員寄贈

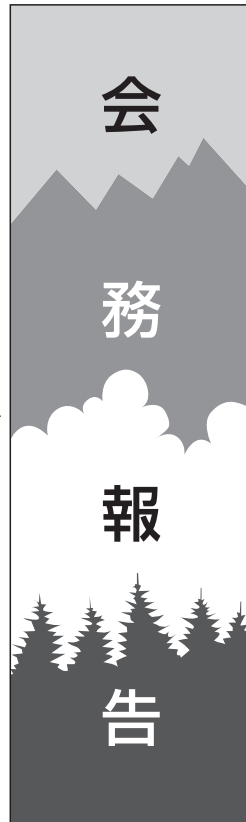
☆ 山と溪谷社より「分県登山ガイド」近刊計25冊と「ヤマケイ・アルペンガイド」近刊計10冊をご寄贈いただきました。

いる。『小樽天狗山ロープウェイ・スキー資料館』（北海道小樽市）、『御坂峠天下茶屋 太宰治記念室』、『面河山岳博物館』（愛媛県久万高原町）など登山の帰りに立ち寄れる施設が多いのが特徴である。3つ目は、「人にフォーカスした施設」で、『深田久弥 山の文化館』（石川県加賀市）、『南アルプス山岳写真館・白旗史朗記念館』（山梨県早川町）など、山にまつわる作家や写真家など著名人の記念館が17施設紹介されている。

全50施設のうち、長野県に14施設、山梨県に6施設と、この隣接する2県で半数近くを占めており、地域的な偏りがあるのも否めないが、この地域は人と山との関わりが深いことの証ともいえよう。これらの地域での登山の帰りには、ぜひ本書で紹介されている施設を訪れて、山を多面的な視線で見えていただきたい。

また、本書には各施設の紹介ページに加えて、21個のコラムが差し込まれており、広く、山に関する豆知識を得ることができる。各章のカバーページには美しい山岳写真とともに、著名な登山家、冒険家、ロッククライマーの格言が

散りばめられており、目を楽しませてくれる。この一冊を片手に住まいの近隣にある施設を巡るのもよいし、遠方に出かける折に、本



令和3年度第7回(11月度)理事会 議事録

日時 令和3年11月10(水)19時～

場所 集会室およびオンライン

(Zoom)

【出席者】古野会長、坂井、山本、

橋本各副会長、南久松、萩

原各常務理事、松原・松田・

清水・飯田・久保田・川瀬・

長島各理事、黒川・佐野各

監事

【欠席者】柏常務理事、平川理事

【オブザーバー】節田(会報編集人)

【審議事項】

1・令和2年度事業報告における遊休財産額の保有上限額の超過解消について、内閣府への資料追加提出について検討し、承認された。

書に掲載された施設を訪れるプランを立てるのもよい。全国の登山愛好家に自由自在に活用していただきたい一冊である。(床田真理)

(南久松) (賛成13名、反対0名)

【報告事項】

1・寄附金1件の受入報告があった。(南久松)

2・正会員6名、準会員1名の入会を承認した旨、報告があった。(古野)

3・晩餐会ウィークについて、準備進捗状況の説明があった。(久保田)

4・事務局の勤務態勢が平常に戻った旨報告があった。(長島)

5・メトロ会(首都圏の大学山岳部の交流・懇親会)からの要望について検討した。(古野)

6・令和3年度同好会連絡会議(10月18日開催)について報告があった。(久保田)

7・102号室の燻蒸(カビ対策)を業者に依頼することについて報告があった。(清水)

8・全国博物館等連絡会議(11月27日開催予定)について報告があった。(清水)

9・「山」11月号の発行について報告があった。(節田)

ルーム誌 11月

4日 山岳地理クラブ

5日 アルピニズムクラブ

8日 財務委員会 学生部 スケッチクラブ

9日 フォトクラブ

10日 理事会 高尾の森づくりの会 山想倶楽部

11日 図書委員会 マウンテンカルチャークラブ

12日 図書委員会

17日 つくも会 休山会

19日 フォトクラブ 平日クラブ

20日 アルピニズムクラブ

22日 総務委員会 会報編集委員会

会

24日 麗山会

25日 山遊会

26日 記念事業委員会 高尾の森づくりの会



◆高尾の森づくりの会 20周年記念会のお知らせ
日本山岳会 高尾の森づくりの会は、2001年1月に自然保護委員会の有志により創設され、本年度で20周年を迎えました。現在も

INFORM ATION

会員異動

物故

安藤 治(5195) 21・11・23
高橋庄一(5352) 21・10・31

29日 青年部
30日 学生部 緑爽会

11月来室者 132名

尾崎祐一(5822) 21・11・14
坂口三郎(7973) 21・11・20
若林忠男(11237) 21・10・25

退会

児玉吉正 (14202) 東海
森山ノリ子(15294)
長谷川徹 (15864) 東海
原田憲一 (16775) 東海

高尾山の北側の国有林、都有林でボランティア会員が主体となつて活発に森づくりの活動を続けています。そこで、「創立20周年を祝う会」を、左記のように企画しました。この20年の間に当会とご縁のあった会員の皆様には、ぜひ参加していただき、ともに祝っていただくよう、お願い申し上げます。
20周年を祝う会は会費制(5000円)となりますが、ご参加の皆様には、20周年記念誌『20年の歩み』と物づくり班の会員による間伐材を利用した記念品を差し上げます。参加をご希望の方は、1月

訂正

「令和3年度第11回登山教室指導者養成講習会の案内」中、令和3年2月11日とあるのは、令和4年2月11日の誤りでした。訂正させていただきます。お詫び申し上げます。 支部事業委員会

ご参加連絡先
markintoky081@gmail.com
または、〒193-0816
八王子市大楽寺町524-11
仁藤方へ郵送で。

(高尾の森づくりの会代表・吉川正幸)

20日までに下記へご連絡くださるよう、お願い申し上げます。
日時 2月20日(日) 午後1時から
会場 京王プラザホテル八王子
(JR八王子駅北口)

◆編集後記◆

●11月末は地元房総の山へ、首都圏最後の紅葉を愛でに大福山と梅ヶ瀬溪谷を歩いてきました。日曜日ということもあり、「果ごもり状態」から脱出してきたと思われるハイカーたちが、大勢訪れていました。その夜の泊まりは御宿の民宿。地魚とビールを鱈腹(たらこ)いただいたことは、言うまでもありません。●翌日は御殿山登山。山頂の手前に「大黒様」という展望台がありました。麓にあった大黒様を信心深い里人たちが担ぎ上げてこの地に祀ったところ、見渡す限りの家々が豊かになったという伝説があるそうです。小春日の下、伊予ヶ岳や富山、遠く富士山を眺めながら、長閑な風情の山里を眺め下ろしていると、我々も豊かになったような気分でした。(節田重節)

日本山岳会会報 山 919号

2021年(令和3年)12月20日発行
発行所 公益社団法人日本山岳会
〒102-0081
東京都千代田区四番町5-4
サンビューハイッツ四番町
TEL 東京(03)3261-4433
FAX 東京(03)3261-4441
発行者 日本山岳会会長 古野 淳
編集人 節田重節
Eメール:jac-kaiho@jac.or.jp
印刷 株式会社 双陽社